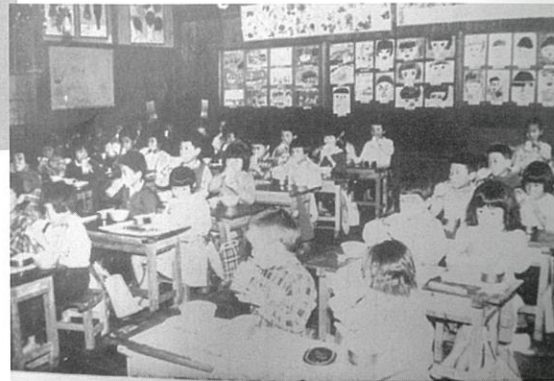




▲砂遊びを楽しむ子ども（迫）昭和30年
錦橋附近での一枚。迫川の岸边が砂地
だった頃、子どもたちは集まってきて
砂遊びをしていた。

砂あそび

夏は子供たちにとつてうれしい季節である。
迫の河原は、砂あそび、水あそびなど、環境もよし、道路のように危険性もない子供たちのパラダイスである。
左沼のような町場では、児童遊園地など子供によい遊び場をあたえよつという世論もあるが、このスナツプはそんな悩みも忘れさせる明るい情景である。
涼風立つや、水あそびはみられなくなり、このころでは、無心の砂あそびが、錦橋上流の河原に多くみられるようになった。
【写真】錦橋付近所見・小林



▲学校給食（中田）昭和38年
学校給食でもミルクを給食に取り入れたときの一枚。

きゆうしよく

善小四年 岡田玉枝



リリリンと、四時間目終わりのベルがなると、今日のおかずはなにかな、と先生のおわりのことばも聞えせん。給食が待ちどろしくてなりません。
給食とうはんは、おあさんたちが三人づつ毎日来います。この欠けは、日出山先生がたてて、くたさるのだそうです。よく毎日べつものがつくれるんだなあ、あんなに、おりの数の数があるのかしらとびびっています。
私は給食がたがいます。とてもおもしろい、なんでも食べるようにしました。このころは、パンにライムやバターがついてきます。ジャムは、みんながよるこんで食って、バターは「しよほく」で食って、

私は二年生のころは、ミルクがたがうすきでしたが、今は食事に半分位もついています。
おとうさんは、「かんせん給食をすもしようになつた。中学校でもあれはよいのだが、玉枝はしあわせななあ」と、おつしやると若校は「おらも来年から給食をたべにいくんだよ。」と、いつたので、みんなでわりました。おはあさん「若校はかせひきやういから早く、学校にいつて、なんでも食べるようになればよいな」と、はなしていただきます。

若校は、ときどき、「おねえちゃん、パンのしよほくを食えん。」と、

この作文は県の方へ推薦され、佳作になりました。そして次のような賞状を県の教育委員会の方からいただいたき、受持の鈴木先生は勿論、大きな愛よることです。
(おわり)

賞状
米山町立善土寺小学校
四学年 岡田玉枝
昭和三十三年一月二十五日
高城県教育委員会教育長
山下忠 贈

▲学校給食の作文（米山）昭和33年
子どもの作文にも給食が取り上げられ、喜びが伝わってくる。



花嫁道中（当館所蔵）▶
撮影年月日は不明であるが、いまとなつてはみることのない花嫁道中の写真。
結婚式は地域ぐるみで執り行う盛大な行事だった。



公民館結婚十七組
披露宴利用五五回
迫町公民館でこの一年間に行なわれた結婚披露宴。利用は五十五回を数えました。
このうち、公民館結婚式は十七組が行ないました。
公民館結婚式は、人前式（お祝いに参会された方々を証人とする）の方法で、「婚姻届に署名捺印 公民館記念帳に署名」と「誓いの言葉」が式の中心になっていきます。（写真・公民館結婚当日のにぎわう文閲前）

▲公民館結婚式の記事（迫）昭和37年



新らしい花嫁式服

写真でごらんのような新らしい花嫁式服を所蔵しました。

結婚のシーズンに入つて、新らしい人生スタートする若い幾組か
の新婚風景が町内のそとに昇受けられる節になつて、御家庭でも何かと準備を急いでおいでの新らしい花嫁式服をめぐりに用意するしたら大へんな出費になりますので、その分を省いてそれを新らしい人生を歩み出す若夫婦の人生計画の経費に廻したら、それだけ有効になるだろうという考えから、婦人会では前から用意して御利用を願つて来ました。
先に作つたもの十沢山の御利用を頂きまして、更に現代の若い万華の御希望に沿うような模様のものを新調して合計三揃えになりましたので、左記のようにな安価な料金で御利用をいたすことになりました。
(モデルは役場の佐藤)

▲婚礼貸衣装の記事（石越）

上の写真とは全く違い、地区の婦人会で貸衣装を行うことで出費を削減しようという昭和35年の記事。

悦子さん
先の分 五〇〇〇円
六〇〇〇円
新調の分 三、〇〇〇円
(石越婦人会)

